

氏名	笹村 聡
学位の種類	博士(社会福祉学)
報告番号	甲第 107 号
学位記番号	福博第 9 号
学位授与年月日	令和 5 年 3 月 20 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
論文題目	地域ケア会議における作業療法士の連携コンピテンシー Competency of Occupational Therapists for Collaboration in Community Care Conferences
論文審査委員	主査 教授 宮上 多加子 (高知県立大学) 副査 教授 長澤 紀美子 (高知県立大学) 教授 村上 尚 (高知県立大学) 教授 横井 輝夫 (高知県立大学)

論文内容の要旨

【背景】地域ケア会議は、地域の在住者が生活を持続するための課題を多職種で検討することを目的に、地域包括ケアシステムの基盤として推進されてきた。地域ケア会議運営において、作業療法士には助言者として生活全般に渡るアセスメントと介入技術を発揮する役割が期待されている。一方で、役割遂行のために必要な能力の詳細は明らかになっていない。

【目的】本研究の目的は、地域ケア会議で作業療法士が発揮するコンピテンシーと、その構成要素を明らかにする事である。コンピテンシーは、一般的に高い業績を持つ者の行動特性を示す概念である。経営、心理・教育、医学・健康関連領域の実践と教育を繋ぐために用いられ、能力を個人特性と外的状況との関連から捉えるものである。

【方法】地域ケア会議に参加経験のある作業療法士 15 名を対象に、個別面接調査を行った。質的記述分析によりコード、カテゴリーを析出した。次に、量的研究手法として、析出されたカテゴリー・コードを変数化し、作業療法の経験年数、ケア会議の参加回数、地域等の属性変数と、カテゴリー・コード変数間の関連について相関検定と χ^2 乗検定を行った。

【結果】質的分析の結果、具体的な助言に現れる専門コンピテンシーとして、『経験を助言に置き換える』『情報の組み立て』『本人・支援者への間接的介入』『多職種の実践への貢献』『地域資源・関連機関に繋ぐ』『OT の役割拡大』の 6 カテゴリーが析出された。参加者との連携を進めるコンピテンシーとして、「助言から内省する」「対象者ベースの検討を引き出す」「参加者との関係性作り」「円滑に連携を進める」「参加者への信頼」の 5 カテゴリーが析出された。また、ケア会議の連携における困難さとして、「経験と助言のギャップ」「助言を難しくする要因」「ケア会議の制約」の 3 カテゴリーが明らかになった。量的分析の結果、コード・カテゴリー変数と、属性変数間に有意の関連を認めた。

【考察】作業療法士の生活全般に渡るサポートティブな専門性は、地域ケア会議の課題検討に

あたり助言内容に活用され、連携の動態をアセスメントし地域支援を促進する事に発揮されていた。コード・カテゴリーの数量的関連からは、コンピテンシー発現機序の多様さと、個人要因、状況要因との不可分性が補足された。

【結論】地域ケア会議における作業療法士の連携コンピテンシーは、助言に現れる専門コンピテンシーと、多職種と連携を進めるコンピテンシーの2つであった。コンピテンシーの構成要素は、作業療法の知識、技術と、多職種に貢献する態度・価値観の内的資源であった。これらの内的資源は、地域ケア会議の連携や地域の状況を通じて調整され、コンピテンシーとして発現した。本研究の結果は、地域ケア会議の状況に沿った作業療法士の連携コンピテンシーを具体的に示した新たな知見となる。結果の活用により、作業療法の専門性向上ならびに、地域ケア会議を通じた地域支援の拡充に寄与すると考えられる。

審査結果の要旨

申請者の博士論文は、地域包括ケアが推進されていく中で、作業療法士としての専門性を発揮するひとつのフィールドとして地域ケア会議を取り上げ、助言を中心とした活動における作業療法士のコンピテンシーとは何か、またコンピテンシーが発現される際の状況や作業療法士の属性や意識との関係について明らかにしようとした研究である。

申請者は、コンピテンシーという包括的な概念について、丁寧な先行研究レビューを行うことにより、申請論文の研究におけるコンピテンシーを操作的に定義する根拠を示している。そして、作業療法士が地域において活動するという具体的な状況下におけるコンピテンシーを明らかにすることで、作業療法士としての活動範囲の拡大と専門性を発揮する際の方向性や留意点を提供していると言える。

具体的な研究方法は、質的アプローチとして個別面接調査の結果を丁寧に分析することに加え、質的記述的分析により析出したコードとカテゴリーを変数化し、個人特性等との間の関連について量的研究手法を用いて分析している。結果として、地域ケア会議における作業療法士の連携コンピテンシーは、助言に現れる専門コンピテンシーと、多職種との連携を進めるコンピテンシーの2つであったと結論づけている。さらに、コンピテンシーの構成要素は、作業療法の知識・技術と、多職種に貢献する態度・価値観という内的資源であり、これらの内的資源は、地域ケア会議の連携や地域の状況を通して調整され、コンピテンシーとして発現することが示されている。

博士論文審査会では、博士論文と公聴会での発表内容をふまえて、申請者が改めて研究概要についてプレゼンテーションを行い、その後、公聴会で出された質問に対する回答について説明を加えた。審査委員会での質疑応答の中では、研究結果を導いた根拠や方法について、また研究で扱われた概念についての確認が行われた。また、今後の研究の方向性についても質問が出され、研究テーマとして発展性があることを確認した。

以上により、審査員4名は、博士論文の審査方法及び審査基準に則り審査した結果、当該論文は審査基準を満たしており、本学人間生活学研究科社会福祉学領域における優秀な論

文に値すると判断した。